

題字は駒井区社協会長

## 新年あけましておめでとうございます

### 福祉教育体験

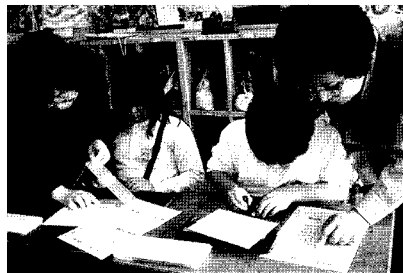
## ボランティアグループの協力のもと、 成育小学校で車イスや手話、 点字の体験学習が行われました。

城東区社会福祉協議会では、次代を担う子どもたちが福祉のことを自分たちで考え、そして行動に結びつけていけるよう、車イスなどの貸し出しや職員の派遣、またボランティアグループの紹介などで、小中学校の福祉教育の支援を行っています。

昨年10月26日、成育小学校では3年生を対象に、車イス、手話、そして点字の体験学習を実施しました。手話、点字についてはそれぞれ、ボランティアビューロー登録グループの手話サークル「ひだまり」と点訳グループ「てんとうむし」の協力を得て行われたものです。



聴覚障害者のメンバーも参加されての手話体験



点字器を実際に使った点字体験

まず車イス体験では、校内の通路を利用し、3人1組になった子どもたちが交代で車イスに乗りながら、下りのスロープで注意することや段差がいかに障壁になるかなどを体験。当区社協の職員から車イスの説明を受けた後も、質問が盛んに飛び出していました。手話体験では、子どもたちの大好きなドラえもんの歌を手話で歌ったり、自分の名前を指文字で表したりし、点字では、身近なところで目にする点字の紹介があったほか、実際に点字器を使って自分の名前をシールに打つ体験を行っていました。こうした福祉教育の意義につ



思わず「恐〜い」という声も上がった車イス体験

いて、成育小学校の大谷三四子先生は「机上だけの学習ではなく、体験することで子どもたちの意識に残ることがねらい。これからの人生の中で今日体験したことを思い出して生かしてくれることがあれば」と語られていました。また、体験学習への協力にあたって、「てんとうむし」の代表、福島邦子さんは「点字への関心を持ってもらうことで、ひいては視覚障害者への理解につながってほしい」と話されており、同じく「ひだまり」の上井房子さんも「ろうあ者の方と出会った時に、手話でも口話でも身振りでもいいから、お話できる方法を一つでも覚えて帰ってもらえたら」と話されていました。



社会福祉法人 大阪市城東区社会福祉協議会会長  
駒井信義

### 新たな事業とアクションプラン の推進をめざして

新年あけましておめでとうございます。

平素は、当区社会福祉協議会の諸事業に対し、温かいご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

さて、国では介護保険制度の改正や障害者自立支援法の施行、さらに次世代育成支援対策の推進など、本人自らの意思に基づいて選択する福祉、尊厳を保持し自立を支援する制度へと大きく変わってきています。

一方、社会福祉を取り巻く環境の急速な変化は、深刻化する児童虐待やいじめ問題、障害者への地域生活支援など社会的擁護を要する人々への支援策をはじめ、高齢者・障害児者・児童青少年などに対して様々な福祉課題を生み出しています。

当区社協におきましても、このような時代の変化・ニーズに対応するために、従来の諸事業の更なる発展に加え、地域包括支援センターの運営や介護予防事業の開始など、新たな事業にも取り組んでいるところでございます。さらに、平成17年3月より区民の皆様とともに取り組んでまいりました、城東区地域福祉アクションプラン「コスモス」が完成(策定)され、今後の推進(実践)に対する更なる支援、サポートが当区社協の使命だと考えております。今後とも、皆様のご支援・ご協力をお願いいたしますとともに、ご健康とご多幸をお祈りいたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



城東区長 高原正典

### 安全・安心・文化豊かな まちづくりをめざして

新年あけましておめでとうございます。

皆様方には、ご家族お揃いでお健やかに新春をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

平素は、市政・区政の各般にわたり格別のご協力、ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

近年、地域社会の抱える生活課題は大きく変化し、多様化してきておりますが、地域福祉に対するニーズは従来の保護・救済から、子育てや介護など身近な生活課題を含めた、すべての住民の方を対象とするものに広がっています。

城東区におきましては、社会福祉協議会や各種団体等と連携を図り、誰もが地域で自分らしく安全で安心して暮らせるまちづくりをめざし、積極的な取り組みを行ってまいります。また、城東区は昨年2月に区長マニフェストを策定いたしました、「チェンジANDチャレンジ」をキーワードとして改革・改善に取り組み、区民の皆様から「信頼され、親しみと愛着を持っていただける区役所」づくりを推進しております。

今後とも皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、ご健勝とご多幸を祈念いたしまして新年のごあいさつといたします。

評議員(合計) 評議員 監事 副会長 会長

- 芳野(順不同) 吉田 吉川 吉川 横山 山田 森田 松葉 樹屋 服部 橋本 沼本 中野 中野 谷口 田中 多田 高田 高島 高木 駒井 久米 久保 川崎 川崎 小野 小野 岡田 岡田 江田 浦田 伊東 井土 石原 石原 碓氷 新瀨 高瀬 浅原 松井 塩川 矢野 宮地 東海 寺迫 出利 貞利 小河 河村 奥井 梅田 松岡 後藤 吉田 駒井
- 和子 秀子 安彦 但久 米子 忠恵 常子 義雄 光彦 利昭 頼明 博至 英司 紀瑛 勝己 親正 輝雄 忠勝 信雄 武夫 邦彦 潤一 皖司 正義 江正 正久 伊允 井賢 石正 石正 碓正 新正 高正 浅正 松正 塩正 矢正 宮正 東正 寺正 出正 貞正 小河正 河正 奥正 梅正 松正 後正 吉正 駒正

役員一同

# 平成18年4月<sup>※</sup>から 城東区社会福祉協議会で、4つの 新しい事業が始まっています。



平成18年4月の介護保険法の改正にともなって開設された地域包括支援センターの運営をはじめ、介護予防事業など4事業が、新たに城東区社会福祉協議会の事業となりました。

※子ども・子育てプラザは平成18年7月から実施しています。

## 地域包括支援センター

介護予防の拠点として、介護予防のためのケアプランの作成のほか、高齢者や介護をされている家族の相談に対応します。

大阪市の委託を受けて運営する「地域包括支援センター」には、社会福祉士、主任ケアマネジャー、保健師などの専門職員が配置され、下記の業務を行います。

- ①介護予防のためのケアプランの作成など、自立して生活できるよう支援します。
- ②介護に関する総合的な相談に応じます。
- ③虐待の早期発見や成年後見制度の紹介など、高齢者の権利を守ります。
- ④地域のケアマネジャーと連携を取りながら、包括的・継続的ケアマネジメントに努めます。

【問合せ】城東区中央2-11-16 ☎6936-1133

## 子ども・子育てプラザ

安心して子育てのできる地域をめざし、子育て情報や交流の場の提供などの支援を行います。

城東区における健やかな子どもたちの育成と、安心して子育てできる環境づくりをめざして、子育てに関する情報や母親同士の交流出来る場の提供などの支援を行います。

【問合せ】城東区今福西1-1-39 ☎6933-2880

## 老人福祉センター

地域の高齢者の健康づくりや自主活動の支援、レクリエーションの機会と場の提供などを行います。

城東区社会福祉協議会が運営することになった老人福祉センターでは、健康増進や教養の向上、自主活動の支援、レクリエーションの機会や場の提供などを行っています。

【問合せ】城東区中央3-5-1 ☎6932-0017

## 介護予防事業

年齢を重ねても、自分らしく“いきいき”と暮らすための取り組みです。



新たに創設された介護予防事業では、65歳以上の要介護認定を受けていない方で、介護予防が必要とされた方(※特定高齢者)を対象に、管理栄養士や歯科衛生士、機能訓練士などの専門家の指導による下記の事業を行います。  
※基本健康診査とあわせて、生活機能チェックを受診して、特定高齢者と指定された方

- ①運動器の機能向上事業  
立ち座りや歩行に必要な筋力をつけるための「筋力向上トレーニング」を週2回ペースで3ヵ月(全24回)行っています。
- ②栄養改善事業  
健康的な食生活を送るための「からだにやさしい食事講座」を月1回6ヵ月(全6回)行います。
- ③口腔機能向上事業  
しっかりと噛んで食べられるよう、「お口の健康講座」を月1回3ヵ月(全3回)行っています。
- ④閉じこもり等予防事業  
憩の家などで地区ネットワーク委員や民生委員などの地域の方々の協力を得ながら、歌を歌ったり体操をしたりする「いきいき教室」を月1回6ヵ月(全6回)行っています。

【問合せ】城東区中央2-11-16 ☎6936-1153



新しいフェスティバルのテーマ「躍動」は、「8(や)・9(く)・10(どう)」から。若い住民の方のアイデアだ。

小学校講堂を借りて、初めて行われた文化祭



10月のよく晴れた日曜日、鯉江東小学校の校庭は賑やかな歓声にあふれていた。鯉江東地域の第33回大運動会だ。町会対抗ゆえに、隣近所のおじいちゃんやおっちゃん、子どもたちに町会のみならず声援が送られている様子がほほえましい。  
例年盛り上がる運動会だが、今大会はとりわけ若い世代の活躍が目立った。その理由とは？「今月から8月の夏祭り、9月の文化祭、そして10月の運動会を



## 「躍動」をテーマに、若い住民たちも活躍するコミュニティづくりを 鯉江東校下社協

8月 や 9月 く 10月 どう

ひとくりにし、鯉江東フェスティバル「躍動」としたんです。行事が続くのは大変ですが、役割分担を明確にし、気持ちを一致させて取り組んだことが成功につながったと喜んでます」と語るのは、フェスティバル運営委員長を務めた松岡正宏鯉江東社会福祉協議会会長だ。  
夏祭りが若いお母さんたちの活躍に支えられたことについて、矢田貝喜佐枝女性部長は「これまで10年行われていた子供会主催の子ども祭を発展的に解消して夏祭りに変えたことが、スムーズに若いお母さんたちの参加を促したようです」と話す。夏祭りも初めてなら、文化祭も初めての行事だったが、ゲストとして、金光藤蔭高等学校の和太鼓演奏をはじめ、映画上映や地域の方々による南中ソーランやフラダンスの披露など盛りだくさんの内容に、立ち見も出る4百人が集まったのだとか。「上からお仕着せで物事を決めるのではなく、各町会から地道に意見やアイデアを吸い上げてきた結果、多くの方に参加していただけたのだと自負しています」と吉川勝彦副委員長。スローガンにとどまらぬ「住みやすいまちづくり」が着々と進められている好例といえるだろう。



鯉江東社会福祉協議会の松岡正宏会長(左)と矢田貝喜佐枝女性部長



地区ネットワーク  
委員会だより

お互いに助けあう明るいまちづくりをめざして

地区ネットワーク委員会で

「ふれあいまちづくり事業」が進められています。

地域で生活する高齢者や障害者、そして子育て中のお母さんなど、全ての人が安心して暮らしていけるよう、区内16の地域に「地区ネットワーク委員会」を設置し、地域でお互いに助け合う「ふれあいまちづくり事業」を進めています。今号では、東中浜地区と関目東地区の取り組みをご紹介します。

東中浜地区

地域の作業所と合同で  
福祉体験と消火訓練

東中浜地域の3・4町会では11月3日、大阪障害者労働センター「のんきもの」と合同で福祉体験と消火訓練を行いました。その意義について奥野皖司ネットワーク委員長は「障害者と健常者ではどうしても目線が違う。バリアフリーとは何かを身をもって知ることは、特に次世代の子どもたちには大切。それを地域のさらに小さな町会という家庭的なコミュニティの中で大人も子どもも共に体験できたことが良かった」と語っています。

ネットワーク推進員の上堀榮子さんは以前に、一人暮らしの高齢者や障害者のいる所を記した災害マップを作成したほど、緊急時に対する意識が高く、今回は城東消防署東中浜出張所の協力を得て、消火訓練と三角巾による応急処置の訓練も加えました。もともとは2年前に「のんきもの」の方から働きかけがあって始



奥野ネットワーク委員長とネットワーク推進員の上堀さん



「昼間いる人の消火訓練こそが大切」(奥野委員長)と、女性や「のんきもの」のメンバーが消火訓練

まったこの行事。互いに理解し合うことの必要性を感じているなかで、去年「のんきもの」の事務所の警報が真夜中に鳴った際、夜間の連絡先を地域の誰もが知らなかったことをきっかけに、さらに隣人として親密さを増すことになったとか。「今回は大人、子ども、ボランティ

アを含めて総勢66人の方が参加。その多くの方から、『日頃なかなか経験できない体験や訓練ができて良かった。今後も続けてほしい』という声が寄せられ、嬉しく思っています。次回はさらにお隣の5町会にも声をかけ、人工呼吸の訓練もメニューに加えようかと思っています」と上堀さん。東中浜地区の助けあいの意識は、ますます広がられていくことでしょう。



参加者は班に分かれて、車イスやアイマスク、耳栓、ウエイトなどを使って、ハンディや高齢者体験を行った

関目東地区

地域で子育てを支援する  
「子育てサロン」

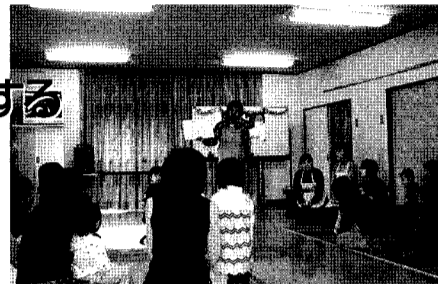
「おはようごじゃいま〜ちゅ」とかわいいう声が聞こえ始めたのは、関目東老人憩の家の一室。関目東地区ネットワーク委員会が、昨今の少子問題を受け子育て支援に目を向けて、昨年12月8日に「ふれあいまちづくり事業 ~ぼくをわたしをクリスマスに連れてって~」を開催し



サンタさんからクリスマスプレゼントを受け取る子どもたち

ました。普段は毎月第2・4金曜日にサークル「わんぱく124」として、幼児と保護者のつどい「関目東 子育てサロン」が開かれています。今回はちょっと違った雰囲気のようなのです。

ネットワーク推進員の伊藤富美子さんの「ただ今から始めます」を合図に、クリスマス会がスタート。いつもと違う雰囲気にかかると、子



ボランティアグループ「あべのおはなしポン」の皆さんによる絵本の読み聞かせの様子

どもたちもそわそわしています。お手伝いにいられていたのは、ボランティアグループ「あべのおはなしポン」のメンバーの皆さん。手遊びや絵本の読み聞かせ、エプロンシアターなどが次々と、子どもを飽かさせないテンポで繰り広げられます。そして、お待ちかねのサンタさんの登場！ 背負ってきた白い袋の中には、ボランティアさんによる手作りお菓子や手作りカードなどが盛りだくさんです。サンタさんからこわごとを受け取る子どもたちの愛くるしい表情に、見守るお母さんたちやボランティアさんの顔もなごみます。児童委員さんも「いつもにも増して明るい笑顔と雰囲気でした」と語られていました。関目東地区の取り組みは、お母さんたちの子育てを地域で支援しようという、温かさが現れた「ふれあいまちづくり事業」だといえるでしょう。



サンタさんを囲んで記念撮影

地区	ネットワーク委員長	保健・医療・福祉ネットワーク推進員	事務所・電話番号
諏訪	小林 種美	榎部豊久子	諏訪老人憩の家 ☎6968-3200
中浜	吉田 定治	葛本 清	中浜老人憩の家 ☎6969-8485
森之宮	宮地 英一	宮上美奈子	森之宮老人憩の家 ☎6967-1124
東中浜	奥野 皖司	上堀 榮子	東中浜老人憩の家 ☎6969-3316
城東	江草 正久	上出 晶子	城東老人憩の家 ☎6968-0294
鳴野	梅田晋次郎	高橋千恵子	コミュニティホールしぎの ☎6961-5446
聖賢	高田 輝雄	村田 節子	聖賢会館 ☎6934-6161
今福	岡田 正義	菅田 圭子	今福老人憩の家 ☎6933-0057
放出	後藤 義弘	大谷佐地子	放出老人憩の家 ☎6968-7711
鯉江	河村 武明	中野 弘美	鯉江老人憩の家 ☎6935-6655
鯉江東	松岡 正宏	苫野 卓子	鯉江東老人憩の家 ☎6933-0092
関目	高島 勝	吉村 久枝	関目老人憩の家 ☎6935-8686
関目東	谷口 瑛	伊藤富美子	関目東老人憩の家 ☎6933-1089
葦	橋本 利昭	北尾 俊子	葦老人憩の家 ☎6930-1883
榎並	伊東 允二	青山佳代子	榎並会館 ☎6932-8264
成育	貞利 政和	越智 君夫	成育コミュニティホール ☎6930-0256

保健・医療・福祉ネットワーク推進員  
連絡会を開催

毎月第2水曜日、推進員連絡会が在宅サービスセンター「ゆうゆう」で行われ、各地区での行事やイベント、高齢者・障害者・子どもに関するさまざまな出来事や相談ケースなどの情報交換を行っています。

また、地域の事業に多く関わっていることから、レクリエーションの学習や手芸・介護保険の講習など幅広い分野の学習会も行っており、時には、区内にある施設や病院などにも出向いて、日々ある相談に対応できるよう情報収集にも努めています。病院を見学する推進員たち





ボランティアビューロー

# 同びまちで、すぐそばで

ボランティアビューローだよ  
TEL 6936-1153 FAX 6936-1154  
ボランティアビューローだよは、ボランティアビューローと地域の皆さんをつなぐ情報コーナーです。

城東区

## ボランティアビューローでは、ボランティアに関する相談や支援を行っています

ビューローとは「事務所」という意味で、ボランティアに関する相談・支援を行います。ボランティア活動はもちろん、市民活動の総合窓口として、下記のようなさまざまな活動を行っています。

- ボランティアに関する相談受付
- ボランティア活動に関する支援(情報提供など)
- ボランティア講座・学習会の開催(年3~5回)
- ボランティア情報誌の発行(不定期 年6回)
- ボランティア個人・グループの連絡会(年2回)
- ボランティア保険の受付業務
- 小・中学校の総合学習への協力

ボランティアに参加されている方々は、一人ひとりが自分の力を生かせる社会、自分らしさが尊重される社会、住みやすい社会づくりを求めて社会参加をしています。

あなたもチャレンジしてみませんか?もう1人の自分探しに。

きっかけは何でもOK「趣味を生かして、できることから」。

相談・見学・体験

まずは、自分が楽しいことが持続の秘訣。楽しそうと思ったらやってみましょう。

## ボランティア募集中!

一人でも、今日からでもできることはたくさんあります。年齢、性別、資格などは一切問いませんので、お気軽にご相談ください。



### ●活動例

- 施設(高齢者、障害者、児童など)でのお話相手やお手伝い
- 買物介助や外出介助
- 子どもの遊び相手や見守り
- 囲碁・将棋の相手・パソコン指導

## おはなしらんらん

### 目を輝かせて聞いてくれる子どもたちの笑顔に会いたくて



読み聞かせの小道具と一緒に、メンバーの皆さんで

子どもたちや高齢者の方を主な対象に、絵本の読み聞かせや語りを行っているのは、2000年11月に発足したグループ「おはなしらんらん」です。もともとは、ある絵本の読み聞かせ講座を受講したメンバーが誘い合って、図書館などでボランティアを始めたのが最初。そのうち、他の講座などで知り合った方もメンバーに加わって、現在は澤谷彌子さんを代表とする11人が活動を行っています。主な活動場所は子どもたちの集まる図書館や子ども・子育てプラザのほか、城東区在宅サービスセンター「ゆうゆう」のデイサービスや特別養護老人ホームなどにも出かけていきます。

絵本でも子どもと大人、子どもでも年齢によって感じ方、受け取り方が違うのが楽しいですよ」と語っています。

毎月第2水曜日に開く定例会では、手遊びの練習をしたり、プログラム作りを行ったり。30分から1時間の中で、読み聞かせや語りの合間に手遊びも交ぜるなど、そのプログラム作りが工夫のしどころだそうです。絵本も大型絵本を使うほか、フェルト生地で作った登場人物の人形をマジックテープでパネルやエプロンに貼ってお話をするシアター形式も子どもたちに大人気。最近では、年配の方になさった地元の民話「くじら橋」が大変

## 初めてのボランティアの合同連絡会を開催 活動における個人情報の扱いについて学習

昨年11月11日、城東区ボランティアグループと個人登録ボランティアの第1回合同連絡会が開催されました。



合同連絡会のようす

今回は、社会的に関心の高まっている個人情報の保護に関し、「活

動における個人情報の扱いについて」をテーマに、大阪ボランティア協会から講師をお招きして学習会が行われました。具体的な事例を取り上げ、ボランティア同士の話し合いも織り交ぜた理解しやすい学習会となり、参加者からは「日頃、電話番号や住所を聞かれた時はどうしたらいいか、など戸惑っていたことがすっきりした」という声が多く聞かれました。

動における個人情報の扱いについて」をテーマに、大阪ボランティア協会から講師をお招きして学習会が行われました。具体的な事例を取り上げ、ボランティア同士の話し合いも織り交ぜた理解しやすい学習会となり、参加者からは「日頃、電話番号や住所を聞かれた時はどうしたらいいか、など戸惑っていたことがすっきりした」という声が多く聞かれました。

## 寄稿 おもちゃ図書館「トライアングル」 初めてのバスツアー

おもちゃ図書館「トライアングル」では、去る9月3日、初めてのバスツアーで、神戸花鳥園を散策したほか、「あぶあぶあ」と「ミュージカルチームLOVE」の定期演奏会の鑑賞を行いました。日曜日ということもあって、お父さんの参加が多く、今後の活動への協力と理解を得る絶好の機会となりました。

まず立ち寄った神戸花鳥園では、動物が苦手な最初は泣いていた子ども次第に慣れて、進んで餌をあげている姿が見られたり、きれいなお花の下でお弁当を食べたりと楽しい時間を過ごしました。

「あぶあぶあ」の公演では、ホール内が薄暗く、また緊張や大きな音に驚く子どもたちで最初は収拾がつかみませんでしたが、やがて音楽の不思議な力で、いつの間にか一緒に手拍子を打ったりしてコンサートの空気に慣れていき、休憩時には舞台上上がって、



楽器にさわらせてもらい、いつもの元気を取りもどしてました。メンバーの皆さんが障害者の「あぶあぶあ」の演奏からは、練習に大変な苦労があること、しかし継続することこそが大切であることが伝わってきました。また、まわりのボランティアやサポートするスタッフの存在の大きさも実感しました。今回のバスツアーでは、今後の活動のヒントを得られたほか、私たちの子どもたちはまだまだ小さく、ハンディもあるけど、いろいろな可能性を持っているんだと再認識できたこ

とが大きな収穫でした。

【活動日時】 毎月第2・4土曜日

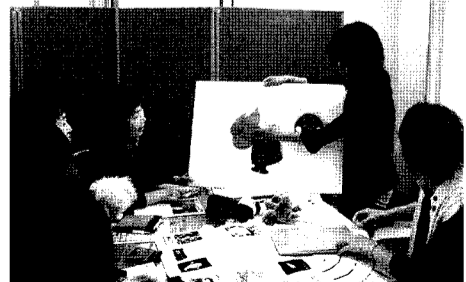
午前10時30分~午後2時

【活動場所】 在宅サービスセンターゆうゆう



高い関心を集めたとか。活動のことを楽しそうに話されるメンバーの方々を見てみると、グループ名の由来が、お話するのが楽しくてはずむ「らんらんらん」と、走るの「RUN」からつけたというのもうなずける話でした。

手遊びをする「らんらん」の皆さん



定例会に集まった皆さん

# 「ゆうゆう」のデイサービス 一人ひとりが「主役」となる、 きめ細かく、温かなサービスを

城東区在宅サービスセンター「ゆうゆう」は、要介護と認定された高齢者を主な対象として、デイサービス(通所介護事業)を行っています。デイサービスとは、昼間に通っていただき、健康チェックや入浴、食事、レクリエーションなどのサービスを提供するものですが、「ゆうゆう」ではさらに、地域の方々と連携したさまざまな楽しみも。「ゆうゆう」のデイサービスについてご紹介します。

## さまざまな福祉サービスを円滑にご利用いただける デイサービスを目指しています。

ゆうゆう内には、ボランティア活動の相談窓口であるボランティアビューローや福祉の総合相談窓口、あんしんさぼーなどがあるので、ご利用者の方にも、気軽に相談や、サービスをご利用いただけます。



7月に行われた「七塔ピアノコンサート」のようす

## 一人ひとりを大切に、 自分の家族のように接しています。

職員は、生活相談員やケアワーカー、看護師など8名。それぞれ経験豊かなベテラン揃いです。利用者一人暮らしの高齢者

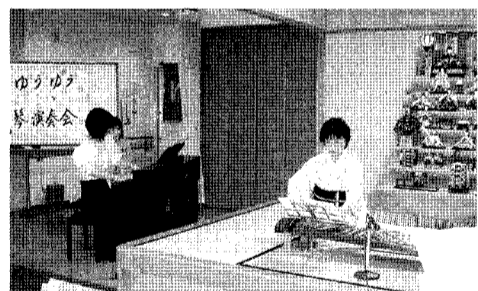


10月に行われた運動会

が多い中で、「ゆうゆう」のモットーは“お一人おひとりが主役”。次回、来所されるまでの元気と希望を持って帰っていただくように、スタッフ全員が自分の家族に接するように利用者の方に対応しています。午前中は健康チェックや入浴に加えて、口腔体操、リハビリ体操を行い、午後のレクリエーションの時間には、手作りおやつを作ったり、初舞やお花見、秋祭り、クリスマスコンサートなどの季節感を楽しむ行事を行っています。こうしたアットホームなサービスが「ゆうゆう」の特長です。

## 地域の方がボランティアとして参加。 開かれたダイルームです。

「ゆうゆう」では、利用者の方の昼食の配膳やお話相手に地域の方がボランティアとして活躍されています。もちろん、ボランティアの役割を単なる人手だと考えていません。利用者の方を家族のように対応していただくお手伝いをさせていただいています。また、「ゆうゆう」のレクリエーションの特長として、月数回、区内のボランティアグループによる大正琴の演奏や音楽療法、ハーモニカ演奏などが行われています。



3月に行われたお琴演奏会のようす

また、小中学生のボランティアも受け入れ、ボランティアを育成する場としての役割も果たしています。

## 利用者の方 うかがいました

### みんなと一緒に お話したり、笑ったり。 ここに来る日が待ち遠しいのです。

昼食後のひととき、クリスマスの飾りを作っている利用者の方にお話をうかがいました。「ここに来て、まず体温や血圧を測ってもらった後にお風呂に入るの。家ではテレビを見るぐらいしか楽しみがないけど、ここだとみんなでご飯を食べたりして楽しい」と話されたのは沖田綾子さんです。

坂上静子さんは「ひとり暮らしなので、大勢でご飯を食べるのがことのほかおいしく、ここに来るのが待ち遠しい」とか。また、中道君子さんは「最近、漫才を聞いても笑えることは少なくなったけど、ここでは年齢が近いから冗談を言って大笑いできるのよ。笑うのは体にいいから。通所日の水曜と金曜をいつも待ちわびているの」と語られていました。



手前から沖田さん、坂上さん、中道さん

城東区内で活動する小さなグループ、組織を紹介します。

## 一歩一歩を、ともに。

## スタッフやボランティアのサポートのもと、 ゆるやかに自立生活をめざして

……………社会福祉法人 そよ風

グループホーム「のんき亭」

グループホーム「からたち」

(社福)そよ風が運営する精神障害を持った方のためのグループホームは、区内に2カ所。男性を対象とした「のんき亭」と、女性を対象とした「からたち」である。グループホームとは、夕食作りなど日常生活における援助を受けながら、生活の力をつけていく場であり、入居理由も「いきなり一人暮らしするには不安がある」「家族と離れて暮らしてみたい」などさまざまだとか。「のんき亭」と「からたち」はそれぞれ、入居者のプライバシーが確保できるワンルーム4~5室と共同スペースを持ち、スタッフの支援のもと共同生活を営んでいる。

夕方、入居者の方が帰宅する時間にあわせてお邪魔すると、「のんき亭」の方では、スタッフの坂本竜一さんが食事の準備の真っ最中。手際よく2~3品のおかずを同時に作っている横で、大根おろしを手伝っていた入居者のお一人、Tさんは「坂本さんの料理はおいしいです。ただ、坂本さんの嫌いなニンジンも除かれているけどね(笑)」と話す。今日の夕食と一緒に囲むのは、しばらくして帰宅したOさんと3人。前もって申し



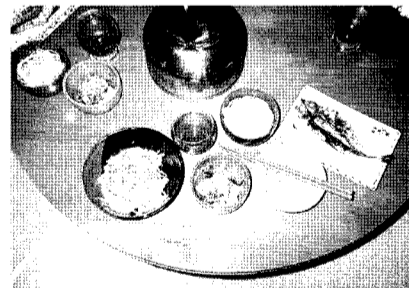
以前の入居者が本場・台湾で買って来てくれた中華鍋は坂本さんのお気に入り。早く帰宅したTさんが食事作りをお手伝い



食卓の風景。坂本さんの料理の腕は「おいしくて、太らせちゃうよ(笑)」とOさんも認める



「からたち」の食卓風景。食事の後はコーヒーを飲みながらおしゃべりも



今日のメニューは焼いたアジをメインとした和食

出ておけば、外で家族や友人と食事をしていくのも自由だ。一方、女性のグループホーム「からたち」も、スタッフの長香住さんを中心に食事づくりが行われている。「夕食の準備のお手伝いもしていただけます。メニューについては、リクエストも聞きますよ」と長さん。最近の一番のヒットメニューは、「のんき亭」と合同で開かれる誕生会で出された卓上串カツだったとか。こうした行事は両グループホームが合同で行われており、入居者のMさんは「お弁当を持って夜桜を見に出かけたり、花火大会をしたのが楽しかったなあ」と話しています。

施設長の杉本みどりさんは「日頃クールな方が、自分のために開かれた誕生会でとても喜ぶ様子を見せてくださったりするんですよ。当グループホームでは、できるだけ個々人の希望に添うよう

に努めていますし、また、地域で支えあっていくことをめざし、うちのスタッフだけで抱え込むのではなく、クリニックやボランティアグループ、保健福祉センターなどの関係機関との連携を大切に考えています」と語る。この日もボランティアの谷知子さんが食事づくりからお手伝いに来られていた。一緒に食卓を囲みながら、おしゃべりに花が咲く。このように「スタッフ以外のいろんな人と関わることは、地域社会に生きていくうえで重要」と杉本さん。(社福)そよ風では、区の行事などで相談窓口を設けてきたが、「当日だけでは対応しきれない数の相談が寄せられることも。家庭の中で悩んでいる方のためにも、いつか常設の相談窓口を作ればと考えています」と語っている。



施設長の杉本さん(左)と、スタッフの長さん

